

事業コード	H18-建-終-09		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	河川改修		班 名	河川・海岸・防災 (tel) 018-860-2515
路線名等	乱川		担当課長名	佐々木 卓郎
箇所名	大館市釈迦内		担当者名	主幹(兼)班長 菅原 俊幸
総合計画との関連	政策コード	C	政 策 名	快適で安全な生活を支える環境づくり
	施策コード	03	施 策 名	災害に強い県土づくりと危機管理体制の充実
	指標コード	06	施策目標(指標)名	河川整備率

## 1. 事業の概要

事業期間	S57 ~ H16 (23年)	総事業費	21.6億円	国庫補助率	4/10																																				
事業規模	延長L=1,830Km 計画高水流量Q=100m <sup>3</sup> /s																																								
事業の立案に至る背景	<p>乱川は、旧大館市街地を貫流する米代川右支川である。流域は大館市北部釈迦内地区の社会・経済の基盤を形成している地域であり、事業の契機となった昭和50年8月豪雨では浸水面積59ha浸水家屋60戸の被害が発生している。</p> <p>乱川は無堤区間が多くかつ河積が不足していたため、たびたび洪水被害が発生しており、流域住民からは、早期の河川改修の実施と完了を求められていた。</p>																																								
事業目的	事業の契機となった昭和50年8月豪雨による洪水被害を発生させない河道整備を実施する。																																								
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>当初計画</th> <th>最終</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>2,357,000</td> <td>2,157,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経費内訳</td> <td>工事費</td> <td>1,686,000</td> <td>1,515,000</td> </tr> <tr> <td>用補費</td> <td>321,000</td> <td>321,000</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>350,000</td> <td>321,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">財源内訳</td> <td>国庫補助</td> <td>944,000</td> <td>862,000</td> </tr> <tr> <td>県債</td> <td>1,274,000</td> <td>1,163,000</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td>139,000</td> <td>132,000</td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td>築堤、掘削、護岸、橋梁工</td> <td>築堤、掘削、護岸、橋梁工</td> <td colspan="3">           最終コスト比較  <math>C / C = ( 0.92 )</math>             最終費用便益比  <math>B / C = ( 20.16 )</math> </td> </tr> </tbody> </table>		当初計画	最終	事業費	2,357,000	2,157,000	経費内訳	工事費	1,686,000	1,515,000	用補費	321,000	321,000	その他	350,000	321,000	財源内訳	国庫補助	944,000	862,000	県債	1,274,000	1,163,000	その他	0	0	一般財源	139,000	132,000	事業内容	築堤、掘削、護岸、橋梁工	築堤、掘削、護岸、橋梁工	最終コスト比較 $C / C = ( 0.92 )$  最終費用便益比 $B / C = ( 20.16 )$							
	当初計画	最終																																							
事業費	2,357,000	2,157,000																																							
経費内訳	工事費	1,686,000	1,515,000																																						
	用補費	321,000	321,000																																						
	その他	350,000	321,000																																						
財源内訳	国庫補助	944,000	862,000																																						
	県債	1,274,000	1,163,000																																						
	その他	0	0																																						
一般財源	139,000	132,000																																							
事業内容	築堤、掘削、護岸、橋梁工	築堤、掘削、護岸、橋梁工	最終コスト比較 $C / C = ( 0.92 )$  最終費用便益比 $B / C = ( 20.16 )$																																						
事業終了後の問題点	特になし。																																								
住民満足度等の状況 (事業終了後)	<p>満足度を把握した対象 受益者 一般県民 (時期:平成18年 8月)</p> <p>満足度把握の方法 アンケート調査 各種委員会及び審査会 ヒアリング インターネット その他の方法(具体的に )</p> <p>満足度の状況</p> <p>治水に対する満足度は高く、約7割の被験者から肯定的な評価を得られた。特に昭和50年8月洪水を経験した人の治水に対する満足度は高く、約9割から肯定的な評価を得られた。また、河川環境に関する満足度については約3割から肯定的な評価を得られた。</p>																																								
上位計画での位置付け	あきた21総合計画の中で、快適で安全な生活を実現するため、災害に強い県土づくりを目指し、河川改修等の推進が位置づけられる。																																								
関連プロジェクト等	大館西道路(日本海沿岸道路)																																								

前回評価結果等	選定または継続      改善      見直し      保留または中止 指摘事項 特になし。																											
	指摘事項への対応 _____																											
	<table border="1"> <tr> <td>指 標 名</td> <td colspan="4">河川整備率</td> </tr> <tr> <td>指 標 式</td> <td colspan="4">河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長</td> </tr> <tr> <td>指 標 の 種 類</td> <td>成果指標</td> <td>業績指標</td> <td>低減指標の有無</td> <td>有      無</td> </tr> <tr> <td>目 標 値 a</td> <td></td> <td>44 %</td> <td rowspan="2">データ等の出典</td> <td rowspan="2">県河川砂防課</td> </tr> <tr> <td>実 績 値 b</td> <td></td> <td>44 %</td> </tr> <tr> <td>達成率 b / a</td> <td></td> <td>100 %</td> <td>把握の時期</td> <td>平成18年    3月</td> </tr> </table>	指 標 名	河川整備率				指 標 式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長				指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有      無	目 標 値 a		44 %	データ等の出典	県河川砂防課	実 績 値 b		44 %	達成率 b / a		100 %	把握の時期
指 標 名	河川整備率																											
指 標 式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長																											
指 標 の 種 類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有      無																								
目 標 値 a		44 %	データ等の出典	県河川砂防課																								
実 績 値 b		44 %																										
達成率 b / a		100 %	把握の時期	平成18年    3月																								

  

事業効率把握の手法及び効果	指標を設定することができなかった場合の効果の把握方法 指標を設定することができなかった理由 _____
	具体的な把握方法と効果（見込まれる効果）      データの出典含む _____
	_____

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 結 果
有 効 性	住民満足度の状況 A      B      C 総合評価として過半数の住民が、本事業を肯定的に評価している。特に事業の目的である治水効果に対する満足度は高かった。	A
	事業の効果 A 達成率100%以上      B 達成率80%以上100%未満      C 達成率80%未満 計画高水流量に対する疎通能力が確保され、近年氾濫被害は発生していない。	C
	事業の経済性の妥当性 A      B      C 費用便益費は20.16であり、本事業は経済的に妥当であったと評価する。	A
効 率 性	コスト縮減の状況 A 縮減率20%以上      B 縮減率20%未満      C 縮減なし	C
	_____	
総 合 評 価	A ( 妥当性が高い )      B ( 概ね妥当である )      C ( 妥当性が低い ) 地域住民の多くが肯定的に評価していること、事業全体を通じて経済性が確保されたことにより、当該事業は妥当性が高いと評価できる。	
	_____	

## 3. 評価結果の同種事業への反映状況等（対応方針）

事業実施前の設計及び調査段階で現場の把握や、実施・詳細設計における適正な事業費の把握に努め、コスト縮減に関しても積極的な取り組みをし、効率的な事業執行を図る。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の「対応方針」を可とする。

### 終了箇所評価判定点検表

( 様式 8 - 1 )

#### (1) 各評価項目の判定基準

観点	評価項目	判定基準	配点	1次	2次	評価結果		
ア有効性	一 住民満足度の状況	a 住民満足度を的確に把握しており、満足度も高い	2	2		A:有効性は高い (4点)  B:有効性はある (1~3点)  C:有効性は低い (0点)		
		b 住民満足度を把握しているが、手法が的確でない又は満足度が低い	1					
		c 住民満足度を把握していない	0					
	二 事業目標の達成状況	a 達成率が100%以上	2	2			1次	2次
		b 達成率が80%以上100%未満	1					
		c 達成率が80%未満	0					
計			4	4		A		
イ効率性	一 事業の経済性の妥当性	費用便益比	a B/Cが、国庫補助採択基準がある場合はそれ以上その他の場合は1.5以上となっている	2	2	A:効率性は高い (2点)  B:効率性はある (1点)  C:効率性は低い (0点)		
			b a、c以外	1				
			c B/Cが、1.0未満	0				
	二 コスト削減の状況(費用便益比が算定できない場合)	a 当初と比較して最終コスト縮減率が20%以上	2	0			1次	2次
		b 当初と比較して最終コスト縮減率が20%未満	1					
		c 当初と比較して最終コスト縮減率がなし	0					
計			2	2		A		

#### (2) 総合評価の判定基準

総合評価の区分	判定基準	総合評価	
A (妥当性が高い)	全ての観点の評価結果が「A」判定の場合	A	
B (概ね妥当である)	「A」判定、「C」判定以外の場合		
C (妥当性が低い)	全ての観点の評価結果が「C」判定の場合		